



報道関係者各位

平成26年2月27日  
青森県立保健大学

## あずまし寮の現状と今後について

### I. あずまし寮1期生の巣立ち

平成25年度より定員40名でスタートした学部新入生対象の学生寮“あずまし寮”では、女子学生40名が二人部屋での共同生活や寮生自治による集団生活体験を今まさに終え、寮を巣立ちようとしている。

あずまし寮1期生として退寮を迎えるにあたり、昨年12月13日には寮生全員が集まり、寮生活で得たものは何か、総括を行った。そこで発表された内容を踏まえつつ、あずまし寮での1年間で寮生が得たものは何かを振り返る。

### II. この1年間で寮生が得たもの

寮生の感想として最も多かったのは、“他者に対する思いやり”を学んだ、というものだった。自分が部屋で試験勉強をしている時は、同室の子の就寝の邪魔にならないように部屋の灯りを消し、机の灯りだけで勉強したり、体調を崩して掃除当番ができない子がいたら代わってあげたり・・・と、生活のちょっとした中で、他者を気遣ったり、声掛けしたり、手伝ったり・・・といったことが、少しずつ身についていった様子が見られた。「最初は二人部屋がイヤでたまらなかった。」と今でこそ本音をもらす学生もいたが、そんな学生が「だけど今は、二人部屋だったから楽しかったと思う。」と述べたのが印象的だった。

「今年度の1年生は、大学生活にすんなりと溶け込んでいる。」との印象を持つ教員もいる。“ぼっち”や“便所飯”等、大学生活での孤立を示す用語が話題になる中、学生寮では、一つ屋根の下、気の合う友達が自然とできやすい。学生寮は、大学初年次の学生の友達作りを支援し、大学生活をうまくスタートさせるための一つの装置にも成り得たと実感する。

### III. あずまし寮の今後

開設2年目となる平成26年度は、学部学生男子20名、女子80名に定員が増員される。次年度からは、今年度の寮生活経験者から選出された女子4名及び寮未経験ながら立候補した男子1名計5名が、学生寮の“レジデントアシスタント”として、寮の新1年生を引っ張っていく存在となる。レジデントアシスタント5名は、昨年11月に、先進的な学生寮運営で知られる国立お茶の水女子大学学生寮SCCを既に視察し、学生寮自治運営の中心的存在である寮生同士、寮運営に関する意見交換を行った。

その結果、次年度の構想として、今年度もっとも大きな課題となった共有スペースの掃除をより効率的に行う体制を整える“清掃委員会”や共有スペースのエアコンの消し忘れ防止対策等環境問題を検討していく“環境委員会”、学生寮での催し物を企画する“イベント委員会”、あずまし寮HPの作成を行う“あずまし寮宣伝委員会”等、すべてレジデントアシスタントの発案で各種委員会を立ち上げることにしている。

学生寮における集団生活を通じ、規律、マナー、公共心等の社会人基礎力をはじめ、寮生のリーダーシップや創造性、問題解決能力をいかに育てていくかが、次年度以降の学生寮の課題となっている。

期間：平成25年4月1日開設

定員：平成25年度40名、平成26年度より100名

場所：青森県立保健大学学生棟 あずまし寮

問い合わせ\*\*\*\*\*

青森県立保健大学

〒030-8505 青森市浜館間瀬 58-1

TEL:017-765-2003 FAX:017-765-2188

担当：教務学生課長 須藤

\*\*\*\*\*